

養老の魅力満載！ 地域活性化フリーマガジン

『Yorou』

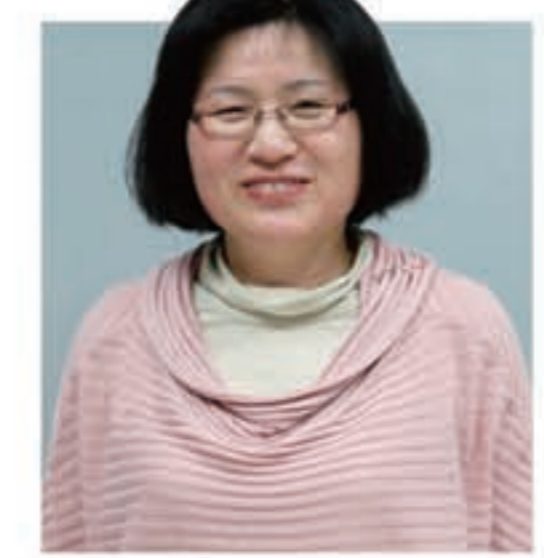
県立大垣養老高校では、昨年、商業クラブがフリーマガジン『Yorou』を創刊。

まちの歴史や名所、人物などを紹介し、県内外で配布しています。

今年も9月発行を目指して目下奮闘中です。

生徒の発案で誕生した 地域密着フリーマガジン

大垣養老高等学校には商業クラブが属する総合学科と、農業学科の2学科があり、全校生徒は706人。校内で生産された野菜や花、加工品などを毎日、校内直売所「アグリくん」で販売しているほか、まちが開催する養老B級グルメコンテストなど、地産地消を意識したイベントにも積極的に参加。地域密着に努めています。「生徒が地元意識を持ち、地域との共生や活性化を考えています。商業クラブはその一助になればと、昨年からフリーマガジン『Yorou』を発行しています」と話すのは、主任教諭・高橋百合さん。生徒たち自身が「まちおこしイベントは盛り上がるけれど、一過性のもものに過ぎない」という問題点を指摘し、「地元に残るもので、町外の人にも興味を持って、知ってもらえるものを作りたい」とフリーマガジン発行を発案しました。その熱い思いを形にしようとしたくなか、幸運なことに2017年



主任教諭 高橋百合さん
「ネタ探しは苦労しますが、若い生徒たちから見た養老のまちは、着眼点や切り口も違うのではと期待しています」

に開催するイベント「養老改元1300年祭」に向けたまちづくり計画「養老改元1300年プロジェクト」からの支援が決定。昨年7月にプレ創刊号、続いて12月に創刊号を発行しました。実際に冊子を手にとってみると、立派な体裁に、まちの魅力がしっかりととした文章で書かれています。内容や構成はよく考えられており、誌面作りに一生懸命取り組む生徒たちの姿が想像できます。読者はファミリー層を対象とし、地元ならではのものや、地元の人にも知らない、もしくは埋もれてしまっているものの魅力を掘り下げつつ、歴史に触れています。

また、地域で活躍する人への取材記事、地場産物を盛り立てるイベント情報やマップ企画も掲載しています。創刊号は「養老改元1300年祭」を紹介し、パット製作の名人・久保田五十一さんにクローズアップする特集ページ、養老の滝へのハイキングコースや遊びのスポット、養老焼き肉街道マップなどで構成しました。

緊張した取材インタビュー 創刊号制作を振り返って

会長の辻理紗さんは「私は野球

が大好きなので、特集ページではイチロー選手のバット製作で知られる、久保田五十一さんを紹介しても紹介したかった。その希望がかなった取材インタビューは感激でした！久保田さんの記事や資料を集め、研究してから取材に臨みましたが、とにかく緊張しました」と、興奮いまだ冷めやらない様子。副会長の仙石桃香さんは「取材前に綿密に質問を用意し、3人で順番にインタビューしたので、1番目の質問から、話の流れで5番目の質問にも答えていただいていた、5番目に聞くことがない！と思つたら一瞬パニックになりました」と思い出して笑い、「良いお話をたくさんいただいたので、原稿内容の絞り込みも大変でした」と話します。

同じく副会長の西川由真さんは、「記事の内容や順番、デザイン、写真の選定、原稿作成も全部みんなで相談しながら進めています。子どもでも読める文章であることや、見やすい誌面を心がけていますが、次号の制作ではもっと編集力を高めて、完成度を上げていかなければ」と今後の課題も語ってくれました。辻さんが「発行までの作業も配布も大変でしたが、やっぱり楽しい。ですが、いまはやりつつ放しで、地域の人にどれくらい浸透しているのか、読者の方々にきちんと読んでいただけたのか、どのページ



上)商業クラブは2年生5人、3年生の8人の合計13人に顧問教諭4人。取材時には名刺交換し、言動もスマートでプロ顔負け 左下)熱くなる制作会議。意見が飛び交う 右下)ページの台割り、デザイン、原稿制作の様子

が面白くてつまらないのか、反応や反響が全く分らないのか、次号ではアンケートなどで読者の意見も集め、これからの誌面作りに生かせるようにしたい」と話す。と、みな真剣な表情でうなずきます。フリーマガジンだからこそまちの魅力が伝わる。高橋先生は「電子辞書で調べると、その言葉の意味しからないうですよね。でも紙の辞書は、前後に書かれている言葉も読んで覚えてしまうものです。クラブの活動自体もフリーマガジン発行か、ウェブ制作かを検討しましたが、ウェブ制作は一生懸命作っても、知りたい情報しか見てくれない可能性が高い。ですから、『Yorou』はたまたま手にした人に、このまちを知りたくなるきっかけとなる情報を載せなくてはなりません。それが面白ければ、きっとほかのページも読みたくなるはず」と話します。続けて「フリーマガジンの長所を生かし、さまざまな魅力を紹介していきます。生徒が一生懸命作っていますので、地元のみならずにはぜひ全部読んでいただきたいです」と呼びかけます。次号は9月に発行を予定。いまは内容の候補を上げて、制作会議で煮詰めているところです。内容を養老の地域情報に限定しているため、ネタ集めには毎回困っているそう。あまり知られていない地元の耳よりな情報は、商業クラブへぜひ！



「Yorou」プレ創刊号と創刊号。まちのイベントなどで配ったほか、桑名駅や名古屋駅でも許可を得て配布しました



会長 辻理紗さん
「久保田さんの取材ではパットの貴重さ、作り手の苦労など、お話のひとつひとつが心に響き、野球の見方も変わりました」



副会長 仙石桃香さん
「人見知りコミュニケーション下手でしたが、取材などで大人と話す経験を得たおかげで、今では全校生徒の前でも堂々と話せます」



副会長 西川由真さん
「養老の情報なら『Yorou』と言われるように知名度を上げていきたい。まずは、地域の人々に読んでいただき浸透させたい！」

information
地域活性化フリーマガジン
『Yorou』
発行元
県立大垣養老高等学校・商業クラブ
住所
養老郡養老町祖父江向野1418-4
バックナンバーなど問い合わせは
☎0584-32-3161まで